

我が国のインテリジェンス能力の抜本的強化に関する提言（骨子）

令和 7 年 12 月 16 日

1 問題意識

3 文書策定当時と次元の異なる様相を呈している現下の厳しい国際情勢を見れば、国家の羅針盤とも言えるインテリジェンス能力を抜本的に強化する必要があり、その対象とすべきは、外交・防衛を中心とする安全保障分野の能力。総合的な検討および抜本的な強化が不可欠。3 文書見直しの最重要課題。

2 インテリジェンスの現在地と取組みの方向性

- (1) インテリジェンスは他分野に比しても、対米依存度が高く、安全保障の能力強化の中で残る大きな課題。
- (2) 各省毎の取組みはあるが、政府全体の総合的な強化方針が不在であり、全体的な能力向上ができていない。
- (3) 上向きの流れ（政策決定者への報告）だけでなく、下向き（部隊、在外公館など）、横向き（関係省庁、諸外国）のそれぞれについて、成果物が適切に共有される体制を構築することが重要。
- (4) 情報空間で情報を発信して相手の認知や行動に影響を与えることも抑止力の重要な一翼を担うもの。
- (5) インテリジェンス能力の強化には、政治の強力なリーダーシップが不可欠。
- (6) インテリジェンスを国家運営の中核となるインフラとしている点で、英国がモデルに相応しい。

3 政府横断的課題

- (1) インテリジェンス・サイクルが健全に機能しなければ、情報部門を強化しても宝の持ち腐れに。
- (2) インテリジェンス・コミュニティの共通課題
 - ① **司令塔機能の強化**：内閣情報官を委員長とし各省高官をメンバーとする「合同情報委員会」を設置し、同委員会をインテリジェンス・コミュニティの司令塔とすべき。
 - ・ 同委員会が、政府全体の情報収集・集約・分析・配付などの責任を持つ体制に改めるべき。
 - ・ 中央の機能強化だけで縦割り是正は不可。本方策は、各情報機関の有機的連携を高め、各機関の当事者意識も高め、国家としての総合力発揮を容易かつ効果的に実現する最適の方策。

- ② **総合分析要員を中心とする大幅な増員**：上記司令塔のもとに、総合的な分析要員を大幅に増員すべき（民間・アルムナイ採用も含む）。AI 活用、専用の政府クラウドも必須。
- ③ **認知戦専門組織**：戦略的コミュニケーション、認知戦の能力向上を図るため、国家安全保障局に、政府全体オペレーションの立案・総合調整を行う司令塔機能を担う専門部局を設けるべき。
- ④ **情報要員のリテラシー共通化・向上**：情報要員を政府横断的に養成する教育機関を創設すべき。
- ⑤ **処遇改善**：指定職ポストの新設、高位ポストの大幅増、「情報職俸給表」の新設。

4 情報ソース毎の課題

- ① **シギント**：インターネット上の通信情報の収集能力強化が必要（主要国と同等に）。
- ② **ジオイント**：内閣衛星情報センターの組織の在り方を見直し、24 時間運用体制を整備すべき。
- ③ **ヒューミント**：活動に伴う身分偽装などの免責（違法性阻却）の制度や情報提供者の保護（亡命等）の制度等を整備し、対外的な情報収集を主任務とする新たな組織を創設すべき。
 - ・ 英国の MI6 を参考とし、公安調査庁を発展的に改組して、新組織のベースとすることが妥当。
- ④ **オシント**：一般財団法人ラデオプレスの役割を再検討し、英国にならい抜本的強化を行う必要。

5 カウンター・インテリジェンス

インテリジェンス能力の強化と、カウンター・インテリジェンスの強化はコインの裏表。有害な情報収集活動を処罰する法令整備が不可欠。拘束された邦人との交換や在留外国人との共生を進める上でも有用。

6 その他

人員、予算は、最低でも政府全体で現状の倍以上へ速やかな増加を図るべき。

(以上)